

開催日時：令和2年11月5日（木） 15時30分より

開催場所：府立茨田高等学校 会議室

出席者（敬称略）

協議会委員・・・川村幸治、早坂三郎、寺野雅之、綿世良一、渡邊哲朗、渡辺みき

事務局・・・（校長）伊藤慎司、（教頭）山下尚亮、松井くみ子、

（首席）西本敦史

記録・・・西本敦史

（☆と○：協議会委員 ●：事務局）

第一部

1. 学校長あいさつ

コロナ感染拡大の収束目途が立たない中、学校としても対応に苦慮している。ただ、明日は文化祭を実施し、規模は縮小しながらでも、出来る範囲で行っていく。また、次年度の入試については厳しい状況だが、本校の存在意義は大きいと考えている。今後、在校生徒にできるだけの支援・見守りを行いつつ、人材の育成に努めていきたい。

2. 本年度の進捗状況と来年度の学校経営計画についての説明

（1）学校経営計画の説明

●本年度は、コロナ感染拡大を受け、経営計画に上げている内容について、十分に進められていない。今後、状況を見ながら、出来る事から進めていく。

●来年度の令和3年度については、変更は行わず、校内での改善にとどめる。

これは、令和4年度に新学習指導要領に移行することから、来年度は、移行

期間と考えるため。『主体的・対話的で、深い学び』『観点別学習状況評価』へのスムーズな移行が行えるよう、これから検討を行っていく。

(2) 学校教育自己診断の見直し

- 昨年度の協議会でご意見をいただいた教員向け分について、内容を精査し、必ず実施する項目、経年変化を見る項目等を残し、新学習指導要領を踏まえた項目を追加した。生徒・教員と同じ項目数に揃えて、結果を活用しやすくした。

(3) 授業アンケート結果

- 昨年結果が悪くなかった項目について、推移をまとめた。令和2年度の結果は、どちらの項目も上昇がみられた。

(4) いじめに関するアンケート結果

- 1年生のアンケート結果で、比較的高い割合で、『嫌な事を言われる事がある』との回答があった。
- 記述欄についても、1年生からは多く出されている。

(5) 進路の決定状況

- 就職状況の悪化から、就職一次の結果にも影響が出ている。昨年と比べて、合格率の低下がみられる。
- 販売など、人気が集まった職種で低下が大きかった。今後、対策を取って支援を続けていく。

(6) 令和3年度教科書（選定・採択）一覧表

- 別紙のようになりました。使用する教科書等を、ご確認ください。

・・・・・・・・・・休憩（教科書等の確認など）・・・・・・・・・・

3. 協議

テーマ『本年度の進捗状況と来年度の経営計画について』

（各協議委員からの意見等をいただく） 議長：川村様

☆令和2年度については、コロナ感染拡大防止の取組みのため、実施が難しい項目が出ていたのは承知している。計画に沿って、できるだけ続けてください。

○学校教育自己診断については、生徒・保護者・教職員で並べて比較できる項目を考えてはどうか。出た結果を比較すれば、3者の意識の違いが分かり、取り組み方にも変化が起こる可能性がある。

○いじめアンケートについては、1年生で『いじめ』を感じた生徒の割合が高かったようだが？

●アンケートの実施時期は例年とあまり変わらないが、授業開始が6月にずれ込んだことから、この影響が出ていると分析している。

○1年生の『先生にいじめられている』、2年生の『手足の震えや吐き気』については、状況の確認はされているのか？

●状況の把握は行っている。今のところ、重大な場面に進んでいるという状況にはないと考えられる。

☆今年の調査が、実質的には1か月ほど早まって実施したような結果になっていると考えられる。入学初期は、新しい環境に対応でききれていないため、結果に表れたのではないのか。

○1年生の『先生が・・・』については、若い先生は生徒との距離感を上手く取ることができないので、やりすぎてしまいがちなところがある。また、言葉だけが独り歩きしてしまう事もあり、しっかりと見守っていれば大丈夫では。

☆生徒のコミュニケーション力を伸ばす前に、生徒の『表現力』や『語彙力』が十分に育っていないように感じている。これが不十分だと、正しいコミュニケーションの成立が難しいと思う。

○今の中高生は、一般的にコミュニケーションの範囲がSNSを使って広がっている。ただし、SNSの範囲で完結している場合も多く、それ以上には広がって行かないように感じる。

☆生徒の遅刻・欠席が多いのは、授業がつまらないから学校に来ない側面があるのでは。授業がつまらない主な要因は、『授業がわからない』からかもしれない。

○生徒に話をする時には、少し易しいめの言葉を使って、理解を促すことも大切。小学校では、特に取組みを進めて、児童の理解を促していると聞いている。

☆生徒に理解できる言葉で、教員から生徒に伝えられているのかを検証してみても、生徒の反応を見ながら、伝え方を変えるように努力する事は、『教師力』を伸ばすことにつながるはず。

○教員が生徒にかけ言葉遣いも、生徒の受け止め方によっては問題が生じている。生徒に対する言葉遣いを、教員自身でチェックする必要があると感じている。

☆生徒にうまく伝わらない場合、指示を別の言葉で伝えたと、生徒の理解が増す場合もあるはず。教員自身が、もっと言葉の重要性を意識する必要があると考える。

○修学旅行は、どのように選定しているのか。

●本来は、沖縄本島で民泊を含む体験を、3泊4日で行う予定だった。ところが、コロナ感染拡大で民泊の受入れが無理になり、さらに感染リスクも高まったことから、和歌山県での体験を含む1泊2日の内容に変更した。

☆一般の家庭で沖縄の生活を体験できるという『民泊』のコンセプトは良いと思う。

○昨年参加した息子も、とても楽しかったと言っていた。

☆これまでの取組みを大切にしながら、修学旅行や行事に、さらにSDGsの観点を取り入れていけば、より良いものになるのでは。

4. 謝辞

●今年は、コロナ感染拡大の影響を受け、学校経営計画の進捗状況や、各種アンケート結果、学校行事、授業など、多くの部分で影響が出ています。そんな中で、今回、多くの助言をいただきました。本当にありがとうございました。

※第3回学校運営協議会の予定

令和3年1月28日（木） 午後3時30分～